

事業計画書

事業名	松戸の歴史的文化遺産の復元・活用研究事業
団体名	松戸の地理・歴史探訪調査会

事業概要	<p>常盤平地区に残された「子和清水」の本来の姿や特色について、水利用や侵食谷の地形的、歴史文化的特性について、また、「子和清水」に関連する旧鮮魚街道の道筋についても、過去のルートと地域開発にともない変貌した姿についてこれまで明らかに出来なかった事柄について調査研究することにより、松戸市の歴史文化的資源価値を見出し、文化財の復元活用を試みる。</p>
------	--

<p>取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）</p>	<p>令和5年7月、文化庁文化審議会文化財分科会の答申を受け、「松戸市文化財保存活用地域計画」が文化庁長官の認定を受けた。松戸市では、市民の「ふるさと松戸」への愛着と誇りを醸成しつつ、地域固有の歴史的・文化的な資産を次世代へ引き継ぐため、令和5年度から令和12年度までの8年間を計画期間とする「松戸市文化財保存活用地域計画」を策定している。この計画では、「行政のみならず地域に暮らす人々が一体となって、地域総がかりで文化財を「守り」「活かし」「伝える」体制を構築し、文化財の継承に努めて行く。」とある。</p> <p>本会が取り組む事業計画は、文化庁、松戸市の方針に即した地域の歴史的文化財の将来的活用を鑑み計画するものである。</p>
<p>事業の目的</p>	<p>松戸市にとって重要な歴史文化的意義をもつ「子和清水」について、自然と地理・歴史的側面から究明し、さらに松戸の歴史発展に寄与した旧鮮魚街道のルートの探求と地域の歴史文化に関わるその特性と現在までにおける変化を明らかにすることで、歴史文化遺産としての価値を見出すとともに、松戸市政や地域の学校や子どもたちへ伝え、地域の環境教育に活かされるような取り組みを行うことを目的とする。なお、本事業は、環境教育や多くの市民の記憶に残る松戸の重要な歴史文化資産が引き継がれることを願って活動するものであり、また「松戸市文化財保存活用地域計画」の推進に協力しながら、後世に伝えていくための重要な調査研究と考える。</p>
<p>事業内容</p>	<p>1 事業内容</p> <p>① 事業にあたっての現状認識、問題提起</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の活動からは、解決されない部分も多く、市民への周知活動も計画通りにはいかなかった経緯から、かつて江戸・東京への重要な物資輸送を担っていた「鮮魚街道」や街道の中継水場「子和清水」については、団地開発や道路整備事業による変貌について松戸市の保存資料不足を補うための研究活動の必要性を感じている。 「子和清水」については、養老伝説の話以外の本来の地域の自然・歴史文化的価値の特性について、地域開発と地形変化に注目して進めていく。これまで整理できなかった常盤平団地および牧の原団地開発により変貌した状況について明らかにし、「旧鮮魚街道」の複数のルートについての既存資料を整理する。松戸市観光協会、教育委員会等が公表している誤った表記について、教育委員会、市立博物館等と話し合いをもって修正依頼をしていく。 <p>② 事業立案</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業は、現松戸市文化財保存活用地域計画に即したテーマ（松戸宿、鮮魚街道と江戸河岸）に該当するものであり、事業の重要性が高いものといえる。 「子和清水」および「鮮魚街道」は、松戸市にとって貴重な歴史文化財的価値があると思われることから、松戸市が把握できていないさらなる調査研究により全容解明に向けての調査研究が重要である。 <p>③ 事業の市民への享受</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業の調査研究は、多く市民に伝達し文化的な資産価値を認識してもらう

ことが重要と考え、地形や水系をさらに調査し、歴史的に変貌した状況についての成果を、地図を活用して市民に分かりやすい説明をしていく。

- ・本事業の成果は、松戸の郷土史に関心を寄せる市民をはじめ多くの市民に伝えていくことで、松戸市の歴史文化により興味をもっていただき、文化財保存の意義や価値について理解し、次世代に伝えてもらえることが有益だと考え、さらなる事業を推進して行く。
- ・市民への情報伝達享受の方法として、メール、松戸市の広報誌、まなびいネット、まつど市民活動センター等を利用した案内を行い、印刷配布、現地案内（巡検）、機関紙の発行等で調査・研究内容を伝えていく。「また、関連事項について近隣の研究会（金ケ作陣屋研究会）ほか、周辺自治体の研究団体と連携しながら勉強会や現地案内（巡検）活動を行いながら交流を図る。

2 スケジュール

実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4～6	鮮魚街道の道筋再調査 1 地図活用により現地調査	会員による布佐（我孫子市）～旧松戸河岸（江戸川・松戸市）の現地調査および文献研究
7～10	鮮魚街道の道筋再調査 2 聞き取り、過去の地図活用で常盤平および周辺地域と子和清水、鮮魚街道の変貌調査	会員による常盤平団地、牧の原団地地域と五香～八柱の重点的現地調査および聞き取り調査
4～11	子和清水の地形・地質・地下水水質調査、聞き取り調査、過去の写真整理	関係専門家を招いて自然特性調査および過去の利用実態についての資料収集と住民への聞き取り調査
11～2	調査研究の整理および勉強会、報告会	景観デザイン（外部委託含む）、地図表現作業、研究報告準備と関係者、市民を集めて勉強会・報告会
3	研究報告と機関紙発行、現地案内	会員、地域住民参加による子和清水および周辺の旧街道、地形を案内

上記スケジュール内には、資料、史料調査整理も含め随時遂行していく。

既存の事業からステップアップする部分 （ステップアップ助成のみ）	
事業従事者数	5人
事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 既存の地形図や旧版地形図を利用し過去と現代の重ね合わせの地図作製 (2) 地形・水系から想像する子和清水と旧鮮魚街道の実態と景観図作成 (3) 旧子和清水および復元子和清水のスケッチ画像作成 (4) 調査研究成果の報告 (5) 完成した際には100部ほどを印刷し、関係者に配布する。 (6) 研究説明会および現地巡検を市民参加型で開催する。
今後の展望	<p>本事業は、公園化されている「子和清水」の昔の本来の姿を復元し、「鮮魚街道」の正確な内容研究を目指すものである。これまでの「子和清水」、「鮮魚街道」の実態調査と資料収集の不足分、未解明部分の調査を次年度継続する。次々年度は、さらに「子和清水」、「鮮魚街道」について、開発による変貌前と今の姿を明らかにし、松戸市の文化財的資産の復元と市民や松戸市の関連機関（市立博物館、教育委員会・生涯学習部など）への情報周知を進めて行く。</p>

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

	科 目	金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 475,000	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 475,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 575,000	

【支 出】

	科 目	予算額	積算内訳
助 成 金 の 交 付 対 象 経 費	消耗品費	¥ 56,500	関連図書・専門書 @2,000×10 20,000円 雑誌購入費用 @1,000×5 5,000円 地形図、旧版地形図 @500×20 10,000円 インクカートリッジ @300×50 15,000円 用紙 1000円 フィールドノート @550×10 5,500円
	印刷製本費	¥ 20,500	関連図書複写代 @10×300枚 3,000円 @50×50枚 2500円 外部委託印刷概算 @150×100 15,000円
	使用料及び賃借料	¥ 23,000	常盤平市民センター他会場代 @600×20 12,000円 印刷機リース利用 作成資料等印刷代金@1100×10ヵ月 11,000円
	食糧費	¥ 20,000	参加者飲料代 @200×5人×20 20,000円
	委託料	¥ 100,000	イラスト・設計料 100,000円
	報償費	¥ 15,000	外部協力者聞き取り @3000×5回 15,000円
	保険料	¥ 10,000	研究会、巡検等開催傷害保険 4月～翌年3月 (1年間の傷害保 険料 1回20人まで10,000円)
	対象経費の合計 (D)		¥ 245,000
そ の 他 経 費	PC購入	¥ 160,000	中古PC OSWindows11乗り換え @80000×2台
	現地調査等交通費	¥ 90,000	@3000×3人×10 90,000円
	調査用計器	¥ 50,000	水質調査関連 電気伝導度計@30,000×1 30,000円、 PH計@20,000×1 20,000円
	その他	¥ 30,000	現地調査等自動車使用 @5000×6回 30,000円
	その他経費の合計 (E)		¥ 330,000
合計額 (F) = (D+E)		¥ 575,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。